

入学準備学習

高校卒業までは、高校の授業を最優先することは言うまでもありませんが、「入学準備学習」も並行して行ってください。課題 1 の問題に取り組むだけでも時間がかかるとは思いますが、教える力を付けるためには課題 2 の読書も必要です。課題 1 に取り組む中で負担を感じた場合は、気分転換も兼ねて課題 2（読書課題）を進めてみてください。

課題

1. ATAMA +に取り組む。

2. 推薦図書の感想文／要約文

(1) 数学専修は、Ⅰ・Ⅳから、図書を 1 つ選び、感想文（2000 字程度、用紙自由）を書く。入学後の学年別ガイダンスのときに、担任に提出する。

《推薦図書リスト》

I. 教育

- 1 『教育力』（斉藤孝著 岩波新書）
- 2 『教えることの復権』（大村はま、刈谷剛彦・夏子著 ちくま新書）
- 3 『新編 教えるということ』（大村はま著 ちくま学芸文庫）
- 4 『学問のすすめ』（福沢諭吉著 PHP 文庫）
- 5 『経験と教育』（ジョン・デューイ著 市村尚久訳 講談社学術文庫）
- 6 『何のために「学ぶ」のか——〈中学生からの大学講義〉1』（外山滋比古著 ちくまプリマー新書）

Ⅳ. 数理科学

- 1 『数学の考え方』（矢野健太郎著 講談社学術文庫）
- 2 『日本の数学』（小倉金之助著 岩波新書）
- 3 『数学を作った人びと』（E・T・ベル著 田中・銀林訳 ハヤカワ文庫）
- 4 『数学史入門』（志賀浩二、上野健爾著 講談社学術文庫）
- 5 『博士の愛した数式』（小川洋子著 新潮文庫）
- 6 『統計学が最強の学問である』（西内啓著 ダイヤモンド社）
- 7 『解析入門』（田島一郎著）

ただし、Ⅳの 7 を選んだ場合は、20 ページの間 12 までを読み、感想文ではなくまとめノートを提出すればよい。もちろん、20 ページまでの問題も解く。